

## マスターズを彩るレジェンドたち(30)

文月は7月。7日は天の川の東西にある織女星と牽牛星が年に一度会うという七夕だ。ロマンに満ちた日が過ぎると15日の海の日が休日。この後、22日は暑さが絶頂の大暑となる。マスターズ会員の皆さんは熱中症に気配りしながらのトレーニングを。今月紹介するレジェンドは男子の若い年齢のスプリンターと、女子は年配の円盤投熟練者だ。

写真／中野英聡

### 森川雄太さん(27歳・兵庫) 短距離3種目の記録保持者

兵庫県内の明石市に住むサラリーマンの森川雄太さんは、京都の同志社大を卒業し、社会人になってからスピードが身に付いたスプリンターだ。

中学、高校を出るまでは三重県で過ごした。「高校時代は400mHがメインで、100mはたまにしか走らずベストは11秒04でした」と森川さん。400mHでは高2・高3と2回、東海総体に出場している。

大学時代は「自分の実力では学生として通用しないだろう」と思い、陸上部へは入らず、同好会へ。

ところが、である。会社勤めをして、わずかな練習時間を利用して走っているうち、次第にスピードが増してきた。そして、陸協に登録すると同時に、マスターズへも登録したのが24歳のとき。2021年だった。

9月にユニバー記念競技場であった兵庫マスターズ選手権のM-24クラスの60mに出てみた。タイムは6秒91(-1.6)。この記録は22年度の全国ランク1位となり、いきなり日本記録となったのだ。

同年度の兵庫マスターズは第37回近畿マスターズ選手権を兼ねており、森川さんは60mと100mの10秒64(-0.2)で2種目に勝った。

いきなり社会人になって記録が伸びた理由について、森川さんは「走り方を変えてみたんです。例えば前傾姿勢を保って走るとか、スタートダッシュを鋭くとか。何かと考えながら練習す

るようになりました」と話す。単に走る練習だけでなく、予備運動の筋力トレーニングなどにも力を入れた。

会社勤めは神戸だが、練習は加古川市にある青色タータントラックを利用している。陸上好きな仲間同士のクラブチームでの練習だ。

25歳になった22年度になると、各

地にも足を運び、6月の布勢スプリント一般の部の100m予選で10秒51(+1.1)、7月の大阪・近畿マスターズのM25・60mを6秒78(+0.5)、8月には奈良・奈良市記録会で200mを21秒47(+1.5)で走破した。

このうち、200m21秒47はランク全国一に。60m 6秒78、100m10秒51



森川さんは昨年の全日本実業団で100m(写真)、200m、4×100mRに出場。今季の関西実業団では100mB決勝1位、200mで3位に入っている

は全国2位のランクだった。それどころか、60mと200mはM25クラスの日本記録となったのだ。ちなみに旧日本記録は60mが6秒93、200mは21秒69だった。

さらに26歳の23年度の活躍を見ると、60mと200mは22年度の公式登録記録を上回るタイムは出ていないが、100mでは新しい記録が出せた。唯一、M-24～M105の20クラスのうち、23年度中に100mで新記録を出せたのは森川さんだけだ。

その100mの記録は10秒46（+1.5）だ。マスターズのM25クラスの旧記録は10秒50だった。森川さんが当の記録をマークしたのは7月の兵庫選手権。決勝4位でゴールしてのものだが、森川さんにとって悔しいレースだった。理由は「3位内になって表彰台へ」の強い思いがあったからだ。

先に公式登録記録の表現を用いたことについて。森川さんのマスターズ日本記録が記録一覧表に掲載されているのは、記録申請を日本マスターズ連合に提出したものだけ。森川さんは登録よりいいタイムを23年度中に出しているのだ。

参考までに記述すると、まず6月には尼崎市陸上記録会の200mで21秒28（+0.9）を。7月には加古川市陸上記録会の100mを10秒41（+1.9）で走り、10月の伊丹市であった住友電工・日本記録挑戦記録会の60mで6秒74（+0.9）といった具合だ。未登録なのが惜しまれる。

森川さんは175cm・68kgの体格。ほかの仲間たちと「復刻AC」という4×100mのリレーチームを組み、春の日本グランプリシリーズ等に出場している。22年7月には兵庫選手権で優勝。同年10月に出場した日本選手権リレーは「今までで一番うれしかったレース」だそう。森川さんはほとんどでアンカーだ。

9月の京都での全日本マスターズには、と水向けると「残念ですが全日本実業団対抗と日程が重複するので、実業団の方へ」出場する予定だ。

## 中世古房子さん(85歳・三重) 楽しみの円盤投でW85の日本新を

2023年の5月20日にあった三重県スポーツレクリエーション・マスターズの女子円盤投W85クラスで、14m13の日本新記録をつくった中世古房子さん。「その日は天候が良くて、体調も良かった……のかな。よく覚えていないんですよ」と話す声は、とても85歳とは思われない若々しさ。

0.75kgの円盤を14m13の地点まで投げたパワーはすごい。従来のW85クラスの円盤投の日本記録は13m06で、14年につくられたもの。実に9年ぶりの記録更新だ。

しかも円盤投でW-24からW95まで16クラスあるなかで、23年度中に日本新記録を出したのは中世古さんただ1人だけなのだ。

「その日は円盤が軽く感じたか」の問いにも「さあ、どうだったか」の返事。「では、何投目の試技で」についても「はっきり覚えていないわ」といった調子。物事に対しておおやかな性格なのだろう。

中世古さんは今住んでいる三重県の出身。マスターズへは友人の誘いで入会。64歳のときだった。かなりの空白期間があるものの、中学時代から陸上をやっていたとかで「中学生の頃は砲丸投で県中学の記録を出したことも」とのこと。その記録については「覚えていないわ」とあっさりしたもの。

高校は県立宇治山田高へ。ここでも陸上の投てきをつけ、高2のときに山形・酒田インターハイに出場した。ここでの成績は「ただ出場（参加）したことに意義ありです」と言って笑った。また、インターハイだけでなく、1955年に神戸で行われた国体にも出たそう。なお、中世古さんの旧性は辻村。

ここから月日が流れ、陸上を再開したのが先述したように64歳から。「何かして楽しまないと」で手にしたのが“懐かし”の円盤だ。入会したときの円盤の重さは1.0kg。0.75kgの重さになったのはW70クラスになってから

だ。

久々に円盤を手にした中世古さんだったが、2002年にいきなりW60クラスの三重県マスターズ記録の17m18をつくった。東海マスターズ選手権にも出て、16m69を投げて1位になっている。64歳の新たな門出だった。

翌03年に65歳で出場した第16回全国スポーツレクリエーション陸上で19m02をマーク、1位に輝いた。同記録は同年度全国ランク4位に当た

る。この全国スポレクには翌年もW65クラスで出て、18m74で2位だった。三重県マスターズでは相変わらず強く、18m76の1位。この年のベストは19m97で全国ランクでは3位となった。

05年に66歳となり、第18回全国スポレクでは17m66で再び2位。東海マスターズでは1位となったが、記録は16m52と全国スポレクを下回った。ただ、第10回三重県マスターズでは18m47を投げ、全国2位のランクとなった。

全国スポレクへは再三参加しているが、全国大会のマスターズへはほとんど足を向けていない。唯一参加した思い出は、東京で開催された第31回全日本マスターズ選手権だ。10年、72歳のときだった。W70・円盤投で16m27を投げ、3位の表彰台へ。全国大会での上位だったから記憶に残っているのだろう。

この東京での全日本マスターズの後、1カ月が過ぎた頃に富山で第23回全国スポレクがあり、中世古さんは17m03で優勝した。さらに地元の三重県マスターズでは18m46と記録を伸ばし、W70クラスの三重県最高となった。

中世古さんが日々練習に使用しているのは、0.75kgより重い1kgの円盤だ。この負荷をかけた練習が飛躍につながっているのだろう。今秋の京都での全日本マスターズには「参加します」とのこと。関西にいるご子息とお孫さんからの応援を楽しみにしている。